



華めく洋食器

大倉陶園100年の歴史と文化

100 years of Japanese Tableware – Okuratouen

2019年6月8日(土)～7月28日(日)

※会期中、一部展示替えあり



① 《一本のバラ プレート》1990年 大倉陶園蔵

◆ 展覧会概要

大正8(1919)年に大倉孫兵衛、和親父子によって創設された大倉陶園は、日本を代表する洋食器メーカーとして世界に誇る作品を生み出してきました。「良きが上にも良きものを」の理念のもと生産される磁器は、フランスのセーヴルやドイツのマイセンなどの名窯にも比肩すると高く評価されています。品格を備えた洋食器は、皇室をはじめ、数多くの文化人や財界人に愛されたほか、老舗ホテルやレストランでも供され、日本の洋風文化の一翼を担ってきました。

本展では、草創期から現在までの作品を通じ、その優れたデザインや品質を紹介するとともに、日本の洋食器文化における同園の役割を探ります。また、最新の調査結果を反映し、これまで知られることのなかった創業当時など戦前の様子を伝える資料も併せてご覧いただきます。

この上なき美術品を作りたいと、最高級の磁器を追求し続けてきた大倉陶園の世界をお楽しみください。

◇ 展覧会構成

第1章 大倉陶園のお誂え食器

大倉陶園は、大正13（1924）年の第11回農商務省工芸展覧会への出品を契機に、各方面より特別注文を受けるようになり、同年には皇后宮職御用品として同展出品作の果物揃のお誂えを拝命しています。同園の名声の高まりと共に、各宮家からの御用命も次第に増加していきました。

第2章 日本人による日本人のための洋食器

大倉陶園は大倉孫兵衛、和親父子によって大正8（1919）年に創業されました。当時の日本において高級洋食器は海外メーカーで占められていたことから、国産製品の育成を目指します。大正11（1922）年には、純白で強度にも優れた生地を生み出すことに成功。日本人ならではの感性によって生み出される装飾技法を用いた同園の製品は、その後国内外で高く評価され、人気を博しています。



②《岡染付黄地薔薇珈琲セット》1935-45年 大倉陶園蔵

第3章 洋風文化の立役者

大倉陶園の歴史は、日本における洋風文化の発展とともにありました。財閥など名家からの特別注文や、海外要人のもてなしを目的に創業された箱根・富士屋ホテル、奈良ホテルなどの老舗ホテルへの製品納入だけでなく、各地の百貨店での販売会を通じて一般にも質の高い製品を提供しました。



左：③《奈良ホテル 貴賓用特別食器揃（満州国皇帝溥儀を迎えるに際し製作）》1935年 奈良ホテル蔵

右：④《色蒔デミタス碗皿》1935-45年 東京村田コレクション

第4章 西洋へのまなざし

陶彫と沼田一雅

陶磁器による彫刻である陶彫は、マイセンやセーヴルなど名窯とよばれる西洋の製陶所では、洋食器と同様に盛んに製造されていました。一流の製陶所として認められるために不可欠なこの陶彫製造という分野に、大倉陶園は開窯当初より取り組んでいます。本展では同園によって製造された、動植物など様々なモチーフの陶彫を展示するほか、セーヴルでも実力を認められた彫刻家沼田一雅が手掛けたとされる陶彫の原型を初めてご紹介します。



⑤《緬羊》原型：沼田一雅 1942-45年 大倉陶園蔵



⑥《猫》1935-45年 東京村田コレクション

第5章 日本の洋食器を追い求めて 戦後～現在

戦後の大倉陶園は、日本人による高品質の洋食器製造のさきがけとしての自負を抱き、新たな創作を行っていきました。純白の生地やそれを彩る独自の装飾は大倉陶園の根幹であり続け、「良きが上にも良きものを」の精神は脈々と受け継がれてきました。近年でも国賓をもてなす際に同園の製品が使用されています。国内需要を満たし、日本人を喜ばせ、さらには海外の人を驚かせたいという大倉父子の夢は達成されたのです。



⑦《赤坂迎賓館食器揃》1974年 迎賓館赤坂離宮蔵

◇会期中イベント

◆ 特別講演

「わたしと大倉陶園—大倉陶園デザイナー・百木春夫との関わり」

講師：三國 清三氏（オテル・ドゥ・ミクニ オーナーシェフ）

聞き手：大平 奈緒子（本展担当学芸員）

7月14日（日）午後3時30分～ 約1時間 地下2階ホール

*無料（要入館料） *定員80名（応募者多数の場合は抽選）

*往復はがき、またはメール（event@shoto-museum.jp）による

事前申し込みが必要です

◇〒・住所・氏名・年齢・日中連絡のつく電話番号をご記入の上、

松濤美術館「講演会」係まで。1通につき1名様まで申込可能。6月25日（火）必着



【参考写真】

オテル・ドゥ・ミクニ所蔵の《12ヶ月のプレート「紫陽花」》

※百木春夫のデザインによる

◆ 連続特別講座

いずれも午後2時から約1時間 地下2階ホール

①「大倉陶園社員（社史研究者）が語る大倉陶園の歴史とその技術」

6月15日（土） 講師：黒澤 学氏（株式会社大倉陶園）

②「大倉陶園の特徴と魅力—新発見の資料もふまえて」

6月30日（日） 講師：大平 奈緒子（本展担当学芸員）

③「日本洋食器のアル・デコ—大倉陶園、ノリタケなど」

7月13日（土） 講師：高波 眞知子（当館副館長）

*無料（要入館料） *各回定員80名 *当日午後1時30分から整理券配布



⑧《色蒔煙草セット》1926年 大倉陶園蔵

◆ 大倉陶園ペインターによる出張実演

ペインター中嶋 祐紀氏（株式会社大倉陶園）による絵付けの実演をご見学いただけます

6月29日（土） 午前1時～／午後2時～／午後3時～ 各回約40分間 1階エレベーターホール

*無料（要入館料）

*事前予約の必要はありません。開催時間中、自由にご見学いただけます

◆ 大倉陶園のうつわでコーヒブレイク

大倉陶園のカップ&ソーサーでコーヒーを楽しみませんか。★坪内 岩男氏（株式会社大倉陶園）の解説付きです

7月6日（土） 午前11時～／午後3時～ 各回約1時間 地下2階ホール

*無料（要入館料） *各回定員20名（応募者多数の場合は抽選）

*往復はがき、またはメール（event@shoto-museum.jp）による事前申し込みが必要です

◇〒・住所・氏名・年齢・日中連絡のつく電話番号をご記入の上、松濤美術館「コーヒブレイク」係まで

1通につき1名様まで申込可能。6月18日（火）必着

◆ 学芸員によるギャラリートーク

6月21日（金）、7月7日（日）、20日（土）

各日午後2時～ 約30分間

*無料（要入館料）

*事前予約の必要はありません

◆ 館内建築ツアー

白井晟一設計の美術館建築を職員がご案内します

毎週金曜日 午後6時～ 約30分間

*無料（要入館料） *各回定員20名

*事前予約の必要はありません

◇開催概要

- 展覧会名** 華めく洋食器 大倉陶園100年の歴史と文化
100 years of Japanese Tableware - Okuratouen
- 会期** 2019年6月8日(土)～7月28日(日)
※会期中一部展示替えあり
- 開館時間** 午前10時～午後6時(入館は午後5時30分まで)
※金曜は午後8時閉館(入館は午後7時30分まで)
- 入館料** 一般500円(400円)、大学生400円(320円)、高校生・60歳以上250円(200円)、
小中学生100円(80円)
*()内は団体10名以上及び渋谷区民の入館料
*土・日曜日、祝休日及び夏休み期間は小中学生無料
*毎週金曜日は渋谷区民無料 *障がい者及び付添の方1名は無料
- 休館日** 月曜日(ただし、7月15日は開館)、7月16日(火)
- 主催** 渋谷区立松濤美術館、神奈川新聞社
- 特別協力** 株式会社大倉陶園
- 会場** 渋谷区立松濤美術館 〒150-0046 東京都渋谷区松濤2-14-14
電話: 03-3465-9421 HP: <https://shoto-museum.jp/>

交通案内

- 京王井の頭線 神泉駅下車徒歩5分
 - JR・東京メトロ・東急電鉄 渋谷駅下車徒歩15分
- ※駐車場はございません

◇次回展のご案内

ちゆ しま
「美ら島からの染と織一色と文様のマジック」
2019年8月10日(土)～9月23日(月・祝)



報道関係のお問い合わせ

広報担当 平塚・西(pr-sma@shoto-museum.jp)

展覧会担当: 大平(ohira@shoto-museum.jp)
西(nishi@shoto-museum.jp)

電話: 03-3465-9421 FAX: 03-3460-6366

- * 画像をご希望の場合は、作品名の前にある番号をお知らせください。
- * 画像の使用は、本展のご紹介をいただける場合のみとさせていただきます。
- * 画像のご利用後、データは破棄してください。
- * 基本情報確認のため、一度校正をお送りください。
- * 掲載後、見本誌をご送付いたしますようお願いいたします。